

平成 22 年度に実施した選択的評価事項に係る  
評価に関する検証結果報告書（大学・短期大学）

平成 24 年 1 月

独立行政法人 大学評価・学位授与機構



## はじめに

大学評価・学位授与機構（以下「機構」という。）では、選択的評価事項に係る評価を開放的で進化する評価とするために、評価の経験や評価を受けた機関等の意見を踏まえつつ、常に評価システムの改善を図ることとしている。

このため、選択的評価事項に係る評価において、毎年度、評価の終了後、評価対象校及び評価担当者へのアンケート調査を実施し、その結果等をもとに評価の有効性、適切性について検証を行うことにより、評価内容・方法等の改善・充実すべき点を把握し、次年度以降に実施する選択的評価事項に係る評価に反映させている。

平成 22 年度実施の選択的評価事項に係る評価においても、引き続きアンケート調査を実施して検証を行うこととし、より透明性の高い評価とするため、新たに平成 22 年度実施の選択的評価事項に係る評価（13 大学及び 2 短期大学）に関する調査及び検証結果を取りまとめることとした。



# 目 次

はじめに

I	機構が実施した選択的評価事項に係る評価の概要	1
II	平成 22 年度実施の選択的評価事項に係る評価に関する検証	
1.	検証の実施方法	5
2.	項目別の検証	
(1)	受審理由について	6
(2)	選択的評価事項及び観点について	7
(3)	自己評価書について	9
(4)	書面調査・訪問調査について	10
(5)	評価結果（評価報告書）について	12
(6)	評価についての全般的な意見・感想について	13
3.	総括	14

参考資料

- 1 選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果  
（選択式回答）【対象校】
- 2 選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果  
（選択式回答）【評価担当者】
- 3 選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果  
（自由記述）【対象校】
- 4 選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果  
（自由記述）【評価担当者】
- 5 選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート【対象校】（大学用）
- 6 選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート【評価担当者】  
（大学用）



## I 機構が実施した選択的評価事項に係る評価の概要

平成 22 年度に実施した選択的評価事項に係る評価の検証をまとめるに当たって、まず機構が実施した大学及び短期大学（以下「大学等」という。）の選択的評価事項に係る評価の概要について触れておく。

機構の実施する認証評価は、大学等の正規課程における教育活動を中心として大学等の教育研究活動等の総合的な状況の評価するものであるが、大学等にとって研究活動は、教育活動とともに主要な活動の一つであり、さらに大学等は、社会の一員として、地域社会、産業界と連携・交流を図るなど、教育、研究の両面にわたって知的資産を社会に還元することが求められており、実際にそのような活動が広く行われている。

機構は、大学評価基準とは異なる側面から大学等の活動の評価するために、「研究活動の状況」（選択的評価事項 A）と「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」（選択的評価事項 B）の二つの選択的評価事項を設定し、大学等の希望に基づいて、これらの事項に関わる活動等について評価を行っている。

選択的評価事項は、まず、平成 17 年度に選択的評価基準として「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」の評価を開始し、「研究活動の状況」については、評価体制が整備されるのを待って、翌平成 18 年度より開始した。なお、平成 19 年度実施分より選択的評価基準から選択的評価事項へ名称を改めている。

平成 22 年度実施の選択的評価事項に係る評価は、二つの評価を開始してから 5 年目の実施にあたる。

### 1. 目的

選択的評価事項に係る評価は、各大学等の個性の伸長に資するよう、以下のことを目的として行った。

- (1) 評価結果を各大学等にフィードバックすることにより、各大学等の教育研究活動等の改善に役立てること。
- (2) 大学等の教育研究活動等の状況を明らかにし、それを社会に示すことにより、広く国民の理解と支持が得られるよう支援・促進していくこと。

### 2. 実施体制

評価を実施するに当たっては、国・公・私立大学等の関係者及び社会、経済、文化等各方面の有識者からなる大学（短期大学）機関別認証評価委員会（以下「評価委員会」という。）を設置し、その下に、具体的な評価を実施するため、対象大学等の状況に応じた評価部会等を編成し、評価を実施した。

評価部会等には、各大学等の教育分野やその状況が多様であること等を勘案し、対象

大学等の学部等の状況に応じた各分野の専門家及び有識者を評価担当者として配置した。

### 3. 方法・プロセス

方法及びプロセスの概要は、下記のとおりである。

#### (1) 大学等における自己評価

各大学等は、「自己評価実施要項」に従って自己評価を実施し、自己評価書を作成した。

#### (2) 機構における評価

機構における評価は、書面調査及び訪問調査により実施した。

- ① 書面調査は、「評価実施手引書」に基づき、対象大学等から提出された自己評価書（大学等の自己評価で根拠として提出された資料・データを含む。）及び機構が独自に調査・収集した資料・データ等に基づいて、対象大学等の状況を調査・分析した。
- ② 訪問調査は、「訪問調査実施要項」に基づき、書面調査では確認できない事項等を中心に調査を実施した。
- ③ 選択的評価事項ごとに、自己評価の状況を踏まえ、その評価事項に関わる各大学等有する目的の達成状況等について評価を実施した。  
なお、選択的評価事項は、いくつかの内容に分けて規定されており、これらを踏まえ基本的な観点が設定されている。目的の達成状況等については、その個々の内容ごとに行うのではなく、基本的な観点の分析状況を総合した上で、選択的評価事項ごとに行った。
- ④ 選択的評価事項ごとに、取組が優れていると判断される場合や、改善の必要が認められる場合等には、その旨の指摘も行った。
- ⑤ 評価結果については、「目的の達成状況が非常に優れている」、「目的の達成状況が良好である」、「目的の達成状況がおおむね良好である」、「目的の達成状況が不十分である」の4段階で記述し、公表した。

### 4. スケジュール

- (1) 平成21年6月に、国・公・私立大学等の関係者に対し、評価の仕組み、方法等について説明会を実施するとともに、自己評価担当者等に対し、自己評価書の記載等について説明を行うなどの研修を実施した。
- (2) 平成21年7月から9月にかけて申請を受け付け、最終的に以下の13大学・2短期大学の評価を実施することとなった。

- 公立大学（11大学）  
 首都大学東京（A・B）、新潟県立看護大学（B）、静岡文化芸術大学（B）、  
 愛知県立芸術大学（B）、名古屋市立大学（A・B）、滋賀県立大学（A・B）、  
 京都府立医科大学（A）、九州歯科大学（A・B）、福岡県立大学（A・B）、  
 福岡女子大学（B）、大分県立看護科学大学（A・B）
- 私立大学（2大学）  
 大阪女学院大学（B）、放送大学（B）
- 公立短期大学（2短期大学）  
 会津大学短期大学部（B）、三重短期大学（B）

(3) 平成21年12月に、対象大学等の自己評価担当者等に対し、自己評価書の記載等について説明を行うなどの研修を実施した。

(4) 平成22年6月に、評価担当者が共通理解の下で公正、適切かつ円滑にその職務が遂行できるよう、評価の目的、内容及び方法等について評価担当者に対する研修を実施した。

(5) 平成22年6月末に、対象大学等から自己評価書の提出を受けた。

(6) 対象大学等からの自己評価書提出後の評価作業スケジュールは、次のとおりであった。

(大学)	
22年7月	書面調査の実施
8～9月	評価部会の開催（書面調査による分析結果の整理、訪問調査での確認事項及び訪問調査での役割分担の決定） 運営小委員会の開催（各評価部会間の横断的事項の調整）
10～12月	訪問調査の実施（書面調査では確認できなかった事項等を中心に対象大学の状況を調査）
12月～23年1月	運営小委員会、評価部会の開催（評価結果（原案）の作成）

(短期大学)

22年7月	書面調査の実施
8月	評価部会の開催（書面調査による分析結果の整理、訪問調査での確認事項及び訪問調査での役割分担の決定）
11～12月	訪問調査の実施（書面調査では確認できなかった事項等を中心に対象短期大学の状況を調査）
12月	評価部会の開催（評価結果（原案）の作成）

(7) これらの調査結果を踏まえ、平成23年1月に評価委員会で評価結果（案）を決定した。

(8) 評価結果（案）に対する意見の申立ての機会を設け、平成23年3月の評価委員会での審議を経て最終的な評価結果を確定した。

## 5. 評価結果

平成22年度に選択的評価事項に係る評価を実施した大学等の評価結果は、次のとおりとなった。

○ 選択的評価事項A

- ・ 目的の達成状況が良好である：7大学

○ 選択的評価事項B

- ・ 目的の達成状況が非常に優れている：1大学
- ・ 目的の達成状況が良好である：10大学、2短期大学
- ・ 目的の達成状況がおおむね良好である：1大学

機構はこの評価結果を平成23年3月25日付で、各対象機関及び設置者へ通知するとともに、機構のウェブサイトにより公表し、かつ文部科学大臣へ報告した。

※ 選択的評価事項は機構ウェブサイトを参照のこと。

[http://www.niad.ac.jp/n\\_hyouka/daigaku/index.html](http://www.niad.ac.jp/n_hyouka/daigaku/index.html) 【大学】

[http://www.niad.ac.jp/n\\_hyouka/tandai/index.html](http://www.niad.ac.jp/n_hyouka/tandai/index.html) 【短期大学】

## Ⅱ 平成 22 年度実施の選択的評価事項に係る評価に関する検証

### 1. 検証の実施方法

#### (1) アンケート調査の実施

平成 22 年度実施の選択的評価事項に係る評価の対象大学等（以下「対象校」という。）及び評価担当者に対し、記名選択式回答（5 段階・2 段階）及び自由記述からなるアンケート調査を実施した。

#### (2) アンケート調査結果等の検証

対象校及び評価担当者に対するアンケート調査内容から、主要な項目を整理・分類し、項目別に分析を行った。その上で、評価実施過程において機構が把握した問題点等も踏まえ、評価の有効性、適切性を検証した。

分析項目は以下のとおりである。

- (1) 受審理由について
- (2) 選択的評価事項及び観点について
- (3) 自己評価書について
- (4) 書面調査・訪問調査について
- (5) 評価結果（評価報告書）について
- (6) 評価についての全般的な意見・感想について

#### ※アンケート調査に係る補足事項

##### 1. アンケート用紙配付日程

	平成 22 年度
対象校	平成 23 年 3 月 25 日
評価担当者	平成 22 年 12 月 27 日

##### 2. 平成 22 年度アンケートの回収状況

	回答数	回収率
対象校	15 校中 15 校	100%
評価担当者	44 名中 32 名	73%

## 2. 項目別の検証

### (1) 受審理由について

今回、選択的評価事項に係る評価を受審した理由として、対象校から、主に次のような回答があった。

選択的評価事項に係る評価の目的の1つである「改善の促進」に関連する回答が寄せられているほか、「評価結果を他の評価（中期目標期間に係る業務実績評価）に用いるため」等のように、評価結果を他の評価に活用することや「大学等の特色となる活動について第三者による評価結果を確認するため」等のように大学の取組に対する客観的な評価を確認することを受審理由として挙げる大学等が見られた。

## (2) 選択的評価事項及び観点について

機構が選択的評価事項を設けたことは適切であったか、また、選択的評価事項のテーマ、評価方法、基本的な観点の構成や内容が適切であったかどうかについて検証を行った。

### ①評価の目的等との関係について

対象校及び評価担当者に対するアンケート調査において、「認証評価基準とは別に選択的評価事項を設けたことは適切であった」(機関③、評②<sup>※</sup>)か質問したところ、対象校では、肯定的な回答が86%（「強くそう思う」53%、「そう思う」33%）、「どちらとも言えない」が13%、評価担当者では、肯定的な回答が72%（「強くそう思う」32%、「そう思う」40%）、「どちらとも言えない」が28%であった。

また、「「研究活動の状況」や「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」を選択的評価事項のテーマとして設定したことは適切であった」(機関④、評③)かとの質問に対しては、対象校では、選択的評価事項A「研究活動の状況」(以降、「評価事項A」)について、肯定的な回答が100%（「強くそう思う」43%、「そう思う」57%）、選択的評価事項B「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」(以降、「評価事項B」)について、肯定的な回答が86%（「強くそう思う」50%、「そう思う」36%）、「どちらとも言えない」が7%、否定的な回答が7%（「そう思わない」7%）であった。一方、評価担当者では、評価事項Aについて、肯定的な回答が63%（「強くそう思う」36%、「そう思う」27%）、「どちらとも言えない」が27%、否定的な回答が9%（「そう思わない」9%）、評価事項Bについて、肯定的な回答が71%（「強くそう思う」25%、「そう思う」46%）、「どちらとも言えない」が25%、否定的な回答が4%（「そう思わない」4%）であった。

次に、「選択的評価事項の評価で、対象校が有する目的の達成状況の判断を示すという方法は適切であった」(機関⑤、評④)かとの質問に対しては、対象校では、評価事項Aについて、肯定的な回答が85%（「強くそう思う」14%、「そう思う」71%）、「どちらとも言えない」が14%、評価事項Bについて、肯定的な回答が79%（「強くそう思う」36%、「そう思う」43%）、「どちらとも言えない」が21%であった。評価担当者では、評価事項Aについて、肯定的な回答が64%（「強くそう思う」9%、「そう思う」55%）、「どちらとも言えない」が27%、否定的な回答が9%（「そう思わない」9%）、評価事項Bについて、肯定的な回答が72%（「強くそう思う」16%、「そう思う」56%）、「どちらとも言えない」が24%、否定的な回答が4%（「そう思わない」4%）であった。

---

※「機関〇」…参考資料「選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果（選択式回答）【対象校】」における番号に対応  
「評〇」…参考資料「選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果（選択式回答）【評価担当者】」における番号に対応

## ②基本的な観点の構成や内容について

対象校及び評価担当者に対するアンケート調査において、「基本的な観点の構成や内容は適切であった」（機関⑥、評⑤）か質問したところ、対象校では、評価事項Aについて、肯定的な回答が85%（「強くそう思う」14%、「そう思う」71%）、「どちらとも言えない」が14%、評価事項Bについては、肯定的な回答が72%（「強くそう思う」29%、「そう思う」43%）、「どちらとも言えない」が29%であった。一方、評価担当者では、評価事項Aについて、肯定的な回答が82%（「強くそう思う」18%、「そう思う」64%）、「どちらとも言えない」が18%、評価事項Bについて、肯定的な回答が76%（「強くそう思う」12%、「そう思う」64%）、「どちらとも言えない」が24%であった。

## ③評価と課題

選択的評価事項に係る評価については、対象校及び評価担当者から肯定的に評価されており、認証評価基準とは別に選択的評価事項を設けたこと、設定された選択的評価事項のテーマ（A・B）、対象校が有する目的の達成状況の判断を示すという方法はそれぞれ概ね適切なものと考えられる。

また、基本的な観点の構成や内容についても、概ね適切であると考えられるものの、自由記述において、機構の設定した観点の構成の意図（選択的評価事項Bの観点をPDCAサイクルに対応するように設定）が対象校に十分に伝わっていないのではないかという意見も寄せられている。機構においても、これまでに寄せられた意見等を踏まえて、大学については平成24年度実施分より、『自己評価実施要項』の記載内容を充実させるなどして、すでに対応を進めているが、今後も引き続き対象校の評価事項及び観点の理解を深め、観点对応した記述を導き出すような工夫が求められる。

### (3) 自己評価書について

評価の実施に当たり対象校が作成した自己評価書が理解しやすかったか、また、添付資料が適切であったかなどについて検証を行った。

#### ①自己評価書の記述について

評価担当者に対するアンケート調査において、「対象校の自己評価書は理解しやすかった」（評⑥）か質問したところ、肯定的な回答が 44%（「強くそう思う」 8%、「そう思う」 36%）、「どちらとも言えない」が 44%、否定的な回答が 12%（「そう思わない」 12%）であった。

#### ②自己評価書の添付資料について

対象校に対するアンケート調査において、「自己評価書に添付する資料について、どのようなものを用意すべきか迷った」（機関⑦）か質問したところ、「迷った」が 13%、「迷っていない」が 87%であった。

一方、評価担当者に対するアンケート調査において、「自己評価書には必要な根拠資料が引用・添付されていた」（評⑦）かについては、評価事項Aについて、肯定的な回答が 64%（「強くそう思う」 9%、「そう思う」 55%）、「どちらとも言えない」が 36%、評価事項Bについて、肯定的な回答が 60%（「強くそう思う」 12%、「そう思う」 48%）、「どちらとも言えない」が 32%、否定的な回答が 8%（「そう思わない」 8%）であった。

#### ③評価と課題

自己評価書の理解しやすさについては、評価担当者からは肯定的な回答が必ずしも多いとは言えず、自由記述において、観点に対応した記述がなされていない、部局によって形式が異なるなど全体として統一感がないといった意見も寄せられている。機構においても、大学については平成 24 年度実施分より、『自己評価実施要項』の記載内容を充実させるなどして、すでに対応を進めているが、引き続き対象校の評価事項及び観点の理解を深め、観点に対応した記述を導き出すような工夫が求められる。

また、自己評価書の添付資料については、対象校及び評価担当者から肯定的に評価されており、概ね適切な根拠資料が添付されていると考えられるものの、自由記述において、過剰な資料が評価担当者の負担となっているという意見が寄せられている。しかし、こちらについても上記の対応を実施することで改善が期待されるが、根拠資料の精査を行っていくことも必要である。

#### (4) 書面調査・訪問調査について

対象校から提出された自己評価書等に基づき、評価部会において評価担当者が対象校の状況を分析する書面調査について、分析の方法、事実誤認の有無を確認するために通知する「書面調査による分析状況」の内容が適切であったかについて検証した。また、書面調査の後、対象校を訪問して書面調査では確認できない事項等を中心に調査する訪問調査について、あらかじめ通知する「訪問調査時の確認事項」の内容が適切であったかなどについて検証を行った。

##### ①書面調査による分析について

対象校に対するアンケート調査において、「書面調査による分析状況」の内容は適切であった」（機関⑧）か質問したところ、評価事項Aでは、肯定的な回答が85%（「強くそう思う」14%、「そう思う」71%）、否定的な回答が14%（「そう思わない」14%）、評価事項Bでは、肯定的な回答が93%（「強くそう思う」43%、「そう思う」50%）、「どちらとも言えない」が7%であった。

一方、評価担当者に対するアンケート調査において、書面調査の分析内容を記入するために「機構が示した書面調査票等の様式は記入しやすかった」（評⑧）かについては、評価事項Aでは、肯定的な回答が100%（「強くそう思う」18%、「そう思う」82%）、評価事項Bでは、肯定的な回答が84%（「強くそう思う」21%、「そう思う」63%）、「どちらとも言えない」が17%であった。

また、「書面調査を行うために、対象校の提出物以外の参考となる情報（客観的データ等）があればよかった」（評⑨）か質問したところ、評価事項Aでは、肯定的な回答が9%（「そう思う」9%）、「どちらとも言えない」が55%、否定的な回答が36%（「そう思わない」27%、「全くそう思わない」9%）、評価事項Bでは、肯定的な回答が4%（「そう思う」4%）、「どちらとも言えない」が64%、否定的な回答が32%（「そう思わない」24%、「全くそう思わない」8%）であった。

##### ②訪問調査時の確認事項について

対象校に対するアンケート調査において、「訪問調査の前に提示された、「訪問調査時の確認事項」の内容は適切であった」（機関⑨）か質問したところ、評価事項Aでは、肯定的な回答が100%（「強くそう思う」14%、「そう思う」86%）、評価事項Bでは、肯定的な回答が100%（「強くそう思う」36%、「そう思う」64%）であった。

一方、評価担当者に対するアンケート調査において、「訪問調査時の確認事項」に対する対象校の回答内容は適切であった」（評⑩）か質問したところ、肯定的な回答が76%（「強くそう思う」20%、「そう思う」56%）、「どちらとも言えない」が24%であった。

### ③評価と課題

書面調査による分析については、対象校及び評価担当者から肯定的に評価されており、「書面調査による分析状況」の内容や機構が示した書面調査票等の様式は適切であると考えられる。なお、自由記述として、「分析の内容に誤解に基づいた記述が一部見られたものの、その後の評価作業において適切なものとなった」という意見も寄せられており、「書面調査による分析状況」に対する意見照会や訪問調査を含めて、全体として評価作業が適切に機能していると考えられる。また、書面調査に際して、参考となる情報（客観的データ等）が必要かどうかについては、評価担当者から様々な意見が寄せられており、今後も要望を把握していくことが求められる。

訪問調査時の確認事項については、対象校及び評価担当者から肯定的に評価されており、「訪問調査時の確認事項」の内容及びそれに対する回答内容は概ね適切であると考えられる。

## (5) 評価結果（評価報告書）について

機構の作成した評価報告書の内容が適切なものであったかについて検証した。また、書面調査、訪問調査の内容が評価結果に十分反映されたかなどについて検証を行った。

### ①評価報告書の内容について

対象校に対するアンケート調査において、「総じて、機構による評価報告書の内容や構成は適切であった」（機関⑩）か質問したところ、肯定的な回答が 93%（「強くそう思う」33%、「そう思う」60%）、「どちらとも言えない」が7%であった。

一方、評価担当者に対するアンケート調査において、「自ら担当した書面調査、訪問調査の内容は、評価結果に十分反映された」（評⑪）か質問したところ、肯定的な回答が 84%（「強くそう思う」24%、「そう思う」60%）、「どちらとも言えない」が16%であった。

### ②評価報告書等の公表について

対象校に対するアンケート調査において「今回の評価のために作成した自己評価書をウェブサイトなどで公表している」（機関⑪）か質問したところ、「している」が87%、「していない」が13%であった。

また、「評価報告書をウェブサイトなどで公表している」（機関⑫）か質問したところ、「している」が93%、「していない」が7%であった。

### ③評価と課題

評価報告書の内容については、対象校及び評価担当者から肯定的に評価されており、評価担当者の意見が十分に反映され、その内容や構成についても適切であると考えられる。

また、評価結果の公表については、アンケート回答後に公表を行った対象校も一部見られたものの、自己評価書及び評価報告書はウェブサイトなどで公表されていると考えられる。

## (6) 評価についての全般的な意見・感想について

(1)～(5)に挙げたもののほか、評価全般について、対象校及び評価担当者から、主に次のような意見・感想があった。

### ・対象校からの意見・感想について

今後の選択的評価事項に係る評価に関して、「引き続き実施して欲しい」「社会貢献・地域貢献活動の状況についても選択的評価事項のテーマとして追加すべきである」といった意見が寄せられている。

このほか、評価結果の活用状況として、機構の評価結果を受けて実施した改善事例なども寄せられている。

### ・評価担当者からの意見・感想について

今後の選択的評価事項に係る評価に関して、「研究活動については、認証評価の対象とすべきである」「評価事項について、対象校の理解を一層深めていく必要がある」といった今後の改善や工夫を期待する意見が寄せられている。

### 3. 総括

本報告書では、アンケート調査した項目のうち、主要な6つの事項、「(1) 受審理由について」「(2) 選択的評価事項及び観点について」「(3) 自己評価書について」「(4) 書面調査・訪問調査について」「(5) 評価結果(評価報告書)について」「(6) 評価についての全般的な意見・感想について」を整理・分類し、分析・評価した結果をまとめている。以下にその概要を述べ総括する。

(1) 選択的評価事項に係る評価を受審した理由として、選択的評価事項に係る評価の目的の1つである「改善の促進」のほかに、「評価結果を他の評価(中期目標期間に係る業務実績評価)に用いるため」「大学の取組に対する客観的な評価を確認するため」等が寄せられている。

(2) 認証評価基準とは別に選択的評価事項を設けたこと、設定された選択的評価事項のテーマ(A・B)、対象校が有する目的の達成状況の判断を示すという方法はそれぞれ概ね適切なものと考えられる。

また、基本的な観点の構成や内容についても、概ね適切であると考えられる。なお、更なる改善のために、機構としても、これまでに寄せられた意見等を踏まえて、大学については平成24年度実施分より、『自己評価実施要項』の記載内容を充実させており、今後も引き続き対象校の評価事項及び観点の理解を深め、観点に対応した記述を導き出すような工夫が求められる。

(3) 自己評価書の理解しやすさについては、肯定的な回答が必ずしも多いとは言えない。機構としても、大学については平成24年度実施分より、『自己評価実施要項』の記載内容を充実させるなどして、すでに対応を進めており、今後も引き続き対象校の評価事項及び観点の理解を深め、観点に対応した記述を導き出すような工夫が求められる。

また、自己評価書の添付資料については、概ね適切であると考えられるが、上記の対応で更なる改善が期待される。このほか、根拠資料の精査を行っていくことも必要である。

(4) 書面調査による分析については、「書面調査による分析状況」の内容や書面調査票等の様式は適切であると考えられる。また、参考となる情報(客観的データ等)が必要かどうかについては、様々な意見が寄せられており、今後も要望を把握していくことが求められる。

また、「訪問調査時の確認事項」の内容及びそれに対する回答は概ね適切であると

考えられる。

- (5) 評価報告書の内容については、評価担当者の意見が十分に反映され、その内容や構成についても適切であると考えられる。

また、評価結果の公表については、アンケート回答後に公表を行った対象校も一部見られたものの、自己評価書及び評価報告書はウェブサイトなどで概ね公表されている。

- (6) 対象校から評価結果を受けて実施した改善に向けた取組や新たに追加すべき選択的評価事項のテーマに係る意見等が寄せられている。なお、後者の意見については、機構において選択的評価事項の見直しを行い、平成 24 年度実施分より評価事項 B のテーマを「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」から「地域貢献活動の状況」とし、一部対応している。

一方、評価担当者からは、選択的評価事項の在り方に関する意見のほか、機構の行う評価の今後の改善や工夫を期待する意見等が寄せられている。

今回の検証によって、対象校、評価担当者双方から機構の行う現行の選択的評価事項に係る評価に対する意見・要望も見られたことから、更なる改善の必要性も示唆された。

選択的評価事項に係る評価の改善については、対象校が評価の経験を重ねることにより、自己評価書作成等の効率化が図られることが期待されるが、機構においても、寄せられた意見等を踏まえて、選択的評価事項に係る評価の趣旨の更なる周知や実施方法等に関する合理化、効率化の取組等について検討していくことが必要であると考えられる。



# 参 考 资 料

## 参考資料 目次

- 1 選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果（選択式回答）【対象校】
- 2 選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果（選択式回答）【評価担当者】
- 3 選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果（自由記述）【対象校】
- 4 選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果（自由記述）【評価担当者】
- 5 選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート【対象校】（大学用）  
※短期大学用も同内容
- 6 選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート【評価担当者】（大学用）  
※短期大学用も同内容

※ なお、アンケートの自由記述については、原則、原文をそのまま掲載した。（ただし、具体の大学及び短期大学や個人等が特定されるものについては、特定できないような表現に改めた上で掲載した。）

平成22年度実施選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果(選択式)【対象校】  
【大学・短期大学】

① 今回、受けた選択的評価事項	A	7
	B	14

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
③ 認証評価基準とは別に選択的評価事項を設けたことは適切であった		8	5	2	0	0	15	4.4	0
		53%	33%	13%	0%	0%	100%		
④ 「研究活動の状況」や「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」を選択的評価事項のテーマとして設定したことは適切であった	A	3	4	0	0	0	7	4.43	0
		43%	57%	0%	0%	0%	100%		
	B	7	5	1	1	0	14	4.29	0
		50%	36%	7%	7%	0%	100%		
⑤ 選択的評価事項の評価で、対象校が有する目的の達成状況の判断を示すという方法は適切であった	A	1	5	1	0	0	7	4	0
		14%	71%	14%	0%	0%	100%		
	B	5	6	3	0	0	14	4.14	0
		36%	43%	21%	0%	0%	100%		
⑥ 基本的な観点の構成や内容は適切であった	A	1	5	1	0	0	7	4	0
		14%	71%	14%	0%	0%	100%		
	B	4	6	4	0	0	14	4	0
		29%	43%	29%	0%	0%	100%		

【2: 迷った 1: 迷っていない】

		2	1	計	平均	未回答
⑦ 自己評価書に添付する資料について、どのようなものを用意すべきか迷った		2	13	15	1.13	0
		13%	87%	100%		

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
⑧ 「書面調査による分析状況」の内容は適切であった	A	1	5	0	1	0	7	3.86	0
		14%	71%	0%	14%	0%	100%		
	B	6	7	1	0	0	14	4.36	0
		43%	50%	7%	0%	0%	100%		
⑨ 訪問調査の前に提示された、「訪問調査時の確認事項」の内容は適切であった	A	1	6	0	0	0	7	4.14	0
		14%	86%	0%	0%	0%	100%		
	B	5	9	0	0	0	14	4.36	0
		36%	64%	0%	0%	0%	100%		
⑩ 総じて、機構による評価報告書の内容や構成は適切であった		5	9	1	0	0	15	4.27	0
		33%	60%	7%	0%	0%	100%		

【2: している 1: していない】

		2	1	計	平均	未回答
⑪ 今回の評価のために作成した自己評価書をウェブサイトなどで公表している		13	2	15	1.87	0
		87%	13%	100%		
	⑫ 評価報告書をウェブサイトなどで公表している		14	1	15	1.93
		93%	7%	100%		

平成22年度実施選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果(選択式)【評価担当者】  
【大学・短期大学】

① 今回、評価を担当された選択的評価事項	A	11							
	B	26							
【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】									
② 認証評価基準とは別に選択的評価事項を設けたことは適切であった		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
		8	10	7	0	0	25	4.04	7
③ 「研究活動の状況」や「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」を選択的評価事項のテーマとして設定したことは適切であった	A	4	3	3	1	0	11	3.91	6
	B	6	11	6	1	0	24	3.92	6
④ 選択的評価事項の評価で、対象校が有する目的の達成状況の判断を示すという方法は適切であった	A	1	6	3	1	0	11	3.64	6
	B	4	14	6	1	0	25	3.84	5
⑤ 基本的な観点の構成や内容は適切であった	A	2	7	2	0	0	11	4.00	6
	B	3	16	6	0	0	25	3.88	5
⑥ 対象校の自己評価書は理解しやすかった		2	9	11	3	0	25	3.40	7
		8%	36%	44%	12%	0%	100%		
⑦ 自己評価書には必要な根拠資料が引用・添付されていた	A	1	6	4	0	0	11	3.73	6
	B	3	12	8	2	0	25	3.64	5
⑧ 機構が示した書面調査票等の様式は記入しやすかった	A	2	9	0	0	0	11	4.18	6
	B	5	15	4	0	0	24	4.04	6
⑨ 書面調査を行うために、対象校の提出物以外の参考となる情報(客観的データ等)があればよかった	A	0	1	6	3	1	11	2.64	6
	B	0	1	16	6	2	25	2.64	5
⑩ 「訪問調査時の確認事項」に対する対象校の回答内容は適切であった		5	14	6	0	0	25	3.96	7
		20%	56%	24%	0%	0%	100%		
⑪ 自ら担当した書面調査、訪問調査の内容は、評価結果に十分反映された		6	15	4	0	0	25	4.08	7
		24%	60%	16%	0%	0%	100%		

## 選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果（自由記述）

### 【対象校】（大学・短期大学）

#### ②選択的評価事項に係る評価を受けた理由について

- ・ 平成 23 年度に、第一期中期目標期間に係る業務実績評価を受けることになっており、当該評価の判断材料として研究活動等に係る評価を受ける必要があったため。
- ・ 選択的評価事項Aの「研究活動の状況」は、教員の科研費等の獲得状況や論文や学会発表などの業績を提出させることで、評価がある程度出来るため受けなかった。本学は「地域に根ざした大学」を目的としているため、選択的評価事項Bについてどのような評価が得られるかを知りたく受けた。
- ・ 本学は、大学設置理念の1つに「開かれた大学」として地域社会や国際社会の発展に貢献する大学を掲げており、社会人聴講や公開講座・公開工房等、地域の学外者に対する教育サービスの充実を重視しています。
- ・ 大学の独自の活動をアピールするため。
- ・ 「選択的評価事項A 研究活動の状況」を受審した理由  
法人評価委員会において中期目標期間評価の教育研究について評価を行う際は、認証評価機関の評価を踏まえて行うこととなっているためである。
- ・ 「選択的評価事項B 正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」を受審した理由  
地域貢献は、本学にとって特に重要な責務であるため。
- ・ 選択的評価事項Aについては、本学は公立大学法人化しており、中期目標に係る業務実績評価の教育・研究の状況については、認証評価結果を踏まえると規定されているため（地方独立行政法人法第79条）。  
選択的評価事項Bについては、本学は公立大学であるため、正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況などの地域貢献活動に係る評価を受けることが相応しいと考えられたため。
- ・ 国立大学等においては、「研究活動の状況」に係る評価は、国立大学法人評価の中で実施されてきており、本学のような公立大学では、「研究活動の状況」に係る評価を大学機関別認証評価で実施する必要性を感じたため。
- ・ 教育研究活動の質を担保することや地域住民をはじめとする多くの方へ公共的な大学への理解を求めため。
- ・ 本学の中期目標・中期計画に掲げているように、青少年期や就労期の教育支援及び壮年・高齢期の学習支援を重要な教育研究の特色としている。貴機構による観点を基に、これまでの本学の「正規課程の学生以外に対する教育サービス」を自己点検・評価をし、貴機構による第三者評価（認証評価）をもとにさらに改善を図ることにしました。
- ・ 評価を受けることで、本学の現状を確認し今後の取組に資するため。
- ・ 地方独立行政法人評価委員会の評価のための資料とするため。（選択的評価事項A）
- ・ 本学は選択的評価事項Bに関係する種々の教育サービスを行っているが、これらの活動に対する外部からの評価結果を知りたいと思ったためである。

### 【対象校】

- ・ 本学が開学以来、取り組んできたプログラムについての評価を願って。
- ・ 本学の特色である地域貢献活動について記述するため。
- ・ 本学では地域連携の推進を大学の理念にしているため。

#### ⑦自己評価書に添付する資料で迷った点について

- ・ どこまでの資料を提出するべきかで悩んだが、問い合わせで解決した。
- ・ 訪問調査の際に「正規課程の学生以外に対する教育サービス」に適合するような活動・データ等の記載漏れを指摘されたが、観点に適合した活動の選別基準の判断が難しく感じた。

#### ⑧「書面調査による分析状況」の適切でなかった点について

- ・ 研究科別の状況の分析に当たって、大学の目的との関係で誤解に基づく記述が見られたが、この点は訪問調査時の説明等を通じて、正しくご理解いただけたものと感じている。

#### ○選択的評価事項に係る評価についての意見、感想など

- ・ 機関別認証評価は教育中心の評価であるため、公立大学が置かれた状況を考えると、選択的評価事項A及び選択的評価事項Bは引き続き実施していただきたい。
- ・ 自己評価書及び評価報告書については、今後速やかに本学ウェブサイトで公表予定。
- ・ 【選択的評価事項A】での「更なる向上が期待される点」として挙げられた、「大学の中核的な研究分野において基礎臨床講座が連携して研究を推進する「がん」、「神経」、「統合的再生医科学」、「バイオインフォマティクス」、「生活支援医療器具開発」、「器官形成・制御に基づく発生医学」の6つの研究ユニットからなる「研究開発センター」により、研究室間連携や共同研究の推進等の組織的な取組の展開が期待される」に関しては、平成22年度中に、上記6研究ユニットにおける研究が活性化するよう支援のあり方等について再検討を行い、支援方法を改めた。
- ・ 正規課程の学生以外に対する教育サービスの捉え方が学内で分かれ、当初、社会貢献事業は入れていなかった。教育サービスを広く捉えなおし、提出した内容が高く評価された。具体例の示し方に工夫があると分かりやすかったのではないかと思う。
- ・ 平成23年4月からの国際化を謳った新学部開設により、国際交流の推進が次のように図られています。
  - 1) 私費留学生枠をこれまで若干名としていたものを（募集人員240名中）20名に拡大
  - 2) 学術交流協定を締結した大学との双方向の留学の推進
  - 3) 本学を含む3校によるコンソーシアム、EU研究ディプロマプログラムでのEUについての体系的な学習、研究の機会提供、など
- ・ 公開講演会を全国各地の学習センターにおいて実施しているが、全学習センターの実施状況の定期的な把握や、公開講演会の開催時に行った受講者アンケートの結果の全学的な取りまとめ及び分析を実施してこなかった。今後はこれらを行って、より一層有意義な公開講演会を開催していくことを計画している。

【対象校】

- ・ 自己点検報告書の作成については、提出時期が当該年度の比較的早い時期ということもあり、データ等について、概ね前年度の実績をもとに作成することになったため、評価にかかる事項の対象年度についての本学の理解が、明確であったとは言い難い側面がありました。

そのため、選択的評価事項についての自己点検報告書も前年度までの実績のある事項で作成し、評価をいただくこととなった次第です。誠に恐縮に存じます。

- ・ 大学には、教育研究活動だけではなく、社会貢献、地域貢献が強く求められるようになってきたことから、社会貢献・地域貢献の状況について選択的評価事項として新たに加えるべきと考える。

## 選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果（自由記述）

### 【評価担当者】（大学・短期大学）

#### ⑤基本的な観点の構成や内容について

- ・ 選択的評価事項Bの自己評価書及び書面調査票の記入に際して、機構側は、対象校及び主査に対し、PDCAサイクルに即した記述を要求され、主査としてはその要求に対応すべく最大限の努力をした。しかしながら、選択的評価事項の書面調査票自体の項目の書き方や構成が、PDCAサイクルに即した記述を導き出すようにはなっていない。とくに対象校は自己評価書をそのように記述するとは気付かなかったと見られる。自己評価書の構成・項目、あるいは事前説明において十分な配慮が肝要である。

#### ⑥対象校の自己評価書について

- ・ 自画自賛の傾向が強すぎた（選択的評価事項A）（1大学のみ）
- ・ 各項目で何を書くべきかを理解していないように思われた。
- ・ 各部局から大学に提出されたものの寄せ集めであって、大学として再構築する意欲が希薄であり、形式的にも不統一な記述がかなり見られました。例えば、同じ項目の設問に対して、部局によって異なる形式で記述してあるのを、大学として統一する努力すらなされていませんでした。基準に関して書いたことと共通する問題点です。
- ・ 概ね理解できたが、中には年間派遣講義が100回を上回ると記述されていた。小規模短大が地域貢献を充実させるためにどのような工夫で実現しているのか、そのノウハウを知り参考にさせていただきたい。

#### ⑦必要な根拠資料について

- ・ 公開講座等のアンケート集計結果。
- ・ 訪問調査では多くの資料が提示されていたことと思われる。

#### ⑧書面調査票等の様式について

- ・ 法人化されている対象校は、中期目標・中期計画、年度別目標・年度別計画、1年度でいいから業務実績報告書の概要、また公立大学法人の場合は、1年度でいいから設置団体の評価委員会の評価結果を提出していただきたかった。もし、負担が過大ならば、インターネットでの検索をスムーズにするため、当該法人及び設置団体のホームページ上の位置ないしURLを記しておいていただきたかった。

#### ⑨対象校の提出物以外の参考となる情報（客観的データ等）について

- ・ データは多ければ多いほどよいというものではない。送られてきた資料だけで処理可能量をはるかに超えている。

【評価担当者】

- ・ 専門分野別の論文数の全国的状況があるとよいかなと思った。でなくとも前年度の調査校の状況と判定でもよいかもしいない。

#### ○選択的評価事項に係る評価についての意見、感想など

- ・ 研究活動がなぜ選択的評価事項に係る評価の対象なのかが分からない。学校教育法第 83 条にあるとおり、大学のミッションは教育と研究である。研究のみを選択的事項に係る評価の対象とすることは教育と研究を差別化することになる（但し、いずれが上位となるのかはよく分からない）。
- ・ 4 段階評価について、大学の特性、機能、規模等で必ずしも相対評価は適切とはいえないし、一方で他大学との整合性の観点からは絶対評価だけでも不十分である。結局は両者を勘案した総合的評価が妥当な基準と考えるのが現状であろう。また、過去の対象校と同等内容であっても先進性から判断すると新規性を問えば同じ評価はできないものが出てくるなど年度、経年による評価値、基準の変動が必然的に出てくる。この点を対象校に理解いただく必要があり、その周知方は必要であろう。
- ・ 選択的評価事項 B に関する対象校の活動が多面的であったので、訪問調査時における施設等の見学により多くの時間をかけたかった。
- ・ 出前講座の回数が非常に多いからといって、特にすぐれているという印象は持ちませんでした。頻度に関して教員間のばらつきが大きく、組織的な取組という印象が薄かったからです。それでも、「特にすぐれている」をあげてもいいのではといわれると、判断が揺れます。
- ・ 正規課程の学生以外に対する教育サービスは、いろいろと実施している大学・短大のみが提出しているため、評価にあたった 2 短大とも良好でした。提出していない短大のほうに改善すべき問題があると思います。但し、正規課程の学生以外への教育サービスは、大学の本来の使命ではないので、厳しく評価する必要はないと思います。

平成22年度実施選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート

選択的評価事項に係る評価を受けた対象校のみお答えください。

- ① 今回、受けた選択的評価事項について、該当するものに○をお付けください

・選択的評価事項A「研究活動の状況」	
・選択的評価事項B「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」	

- ② 選択的評価事項に係る評価を受けた理由をご記入ください

強く どちらとも 全くそう  
 そう思う ← 言えない → 思わない  
 (5) (3) (1)

- ③ 認証評価基準とは別に選択的評価事項を設けたことは適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

- ④ 「研究活動の状況」や「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」  
 を選択的評価事項のテーマとして設定したことは適切であった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

- ⑤ 選択的評価事項の評価で、対象校が有する目的の達成状況の判断を示すという方法は適切であった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

- ⑥ 基本的な観点の構成や内容は適切であった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

→※⑥について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

迷った	迷っていない	
2	1	

⑦ 自己評価書に添付する資料について、どのようなものを用意すべきか迷った

→※⑦について、2とご回答いただいた場合、どのような点で迷ったのかをご記入ください。

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

⑧ 「書面調査による分析状況」の内容は適切であった -----

→※⑧について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

⑨ 訪問調査の前に提示された、「訪問調査時の確認事項」の内容は適切であった -----

→※⑨について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

⑩ 総じて、機構による評価報告書の内容や構成は適切であった -----

⑪ 今回の評価のために作成した自己評価書をウェブサイトなどで公表している -----

⑫ 評価報告書をウェブサイトなどで公表している -----

している	していない	
2	1	
2	1	

・ 選択的評価事項に係る評価についてのご意見、ご感想があればご記入ください。(選択的評価事項に係る評価を受けて何らかの変更・改善を予定しているもの(または実施済みのもの)があれば、それをご記入ください。)

ご協力ありがとうございました。

平成22年度実施選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート

選択的評価事項に係る評価を担当された方のみお答えください。

① 今回、評価を担当された選択的評価事項について、該当するものに○をお付けください

・ 選択的評価事項 A 「研究活動の状況」	
・ 選択的評価事項 B 「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」	

強く どちらとも 全くそう  
 そう思う ← 言えない → 思わない  
 (5) (3) (1)

② 認証評価基準とは別に選択的評価事項を設けたことは適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

③ 「研究活動の状況」や「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」  
 を選択的評価事項のテーマとして設定したことは適切であった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

④ 選択的評価事項の評価で、対象校が有する目的の達成状況の判断を示すという方法は適切であった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

⑤ 基本的な観点の構成や内容は適切であった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

→※⑤について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

⑥ 対象校の自己評価書は理解しやすかった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※⑥について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が理解しにくかったかをご記入ください。

⑦ 自己評価書には必要な根拠資料が引用・添付されていた -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

→※⑦について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような根拠資料が引用・添付されていなかったかをご記入ください。

--

⑧ 機構が示した書面調査票等の様式は記入しやすかった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

→※⑧について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が記入しにくかったかをご記入ください。

--

⑨ 書面調査を行うために、対象校の提出物以外の参考となる情報（客観的データ等）があればよかった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

→※⑨について、5又は4とご回答いただいた場合、どのような情報（客観的データ等）であったかをご記入ください。

--

⑩ 「訪問調査時の確認事項」に対する対象校の回答内容は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

⑪ 自ら担当した書面調査、訪問調査の内容は、評価結果に十分反映された -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

- ・ 選択的評価事項に係る評価についてご意見、ご感想などをご記入ください。

ご協力ありがとうございました。



